

# 第15期町田市立図書館協議会

## 第20回定例会議事録

日時：2015年7月23日（木） 午後3時00分～午後5時00分

場所：町田市立中央図書館 6階中集会室

### ■出席者

（委員） 山口洋（委員長）、清水陽子（副委員長）、  
市村省二、久保礼子、多田美恵子、  
鈴木真佐世、中林君江、砂川とき江  
（計8名）

（館長） 近藤裕一

（事務局） 中嶋真（副館長）、小林直貴、陣内和之

■欠席者 千田実、増川知子

■傍聴者 2名

2015年7月23日

## 第15期図書館協議会 第20回定例会次第

### 《議事録確認》

第18回定例会議事録

第19回定例会議事録

### 《館長報告》

#### 1. 教育委員会

7月3日（金）

##### <議案審議事項>

- ・町田市子ども読書活動推進計画推進会議委員の委嘱等及び解職の臨時専決処理に関し承認を求めることについて（資料1）
- ・町田市立図書館協議会委員の委嘱について（資料2）
- ・町田市民文学館運営協議会委員の委嘱について（文学館）（資料3）

##### <協議事項>

- ・町田市民文学館運営協議会への諮問について（文学館）

##### <報告事項>

- ・第二次町田市子ども読書活動推進計画2014年度取組状況報告書について
- ・町田市子ども読書活動推進計画推進会議設置要綱の一部改正について
- ・「オールヒット！宮川哲夫－昭和の街角を歌で綴る」展の実施報告について（文学館）

#### 2. その他

- ・町田市子ども読書活動推進計画推進会議について（7月14日）
- ・町田市の予算について（資料4）

《委員長報告》

《協議事項》

1. 図書館評価について

《その他》

## ■議事録

○山口委員長 それでは、時間になりましたので、第15期図書館協議会第20回定例会を開催いたします。

まず本日、千田委員と増川委員のお二人は学校の公務でお休みということです。

それでは、先に次第の方で議事録確認をしたいと思います。もう事前に確認済みかと思いますが、メール等で連絡が来ているかと思いますが、第18回と第19回の2回の議事録ができ上がっております。何かご指摘等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、議事録については確認終了ということで公開の手続をお願いいたします。

引き続きまして、館長報告に入ります。では、館長、よろしくお願いいたします。

○近藤館長 それでは、館長報告をいたします。

最初に教育委員会についてです。7月3日に教育委員会がありました。

内容ですけれども、図書館では議案審議事項ということで、1点目が町田市子ども読書活動推進計画推進会議委員の委嘱等及び解嘱の臨時専決処理に関し承認を求めることについてということがありました。内容は、1ページめくっていただいて資料にありますけれども、小学校のPTAの代表の方、中学校のPTAの代表の委員が変わったということ、あと図書館長——私ですけれども、変わったということで6月1日付で委嘱または指名、3月31日付で前の小学校のPTAの代表の方、中学校のPTAの代表と前館長の尾留川さんの解嘱ということでの内容になります。

2つ目が図書館協議会委員の委嘱についてということで、資料2になりますけれども、図書館協議会委員は7月をもって今期の任期が満了ということになりますので、8月からの新しい委員の方の委嘱の承認を得たということになります。

3点目は、市民文学館運営協議会委員の委嘱についてということですが、こちらについても同様に、7月1日付ということで資料3にあるとおり、各委員の委嘱が承認されたことになります。

それから、協議事項の1点目、町田市民文学館運営協議会への諮問についてということですが、これは文学館が開館10年を迎える訳ですが、今後10年の町田市民文学館のあり方について運営協議会へ諮問するというので協議をし、それについても了承が得られたところです。

報告事項としましては、今日手元に冊子が行っているかと思いますが、第二次町田市子ども読書活動推進計画の2014年度の取り組みについて報告いたしました。

2点目の町田市子ども読書活動推進計画推進会議設置要綱の一部改正についてですけれども、こちらについての内容は、4月に市役所の中の組織改正がありまして、今まで委員として子育て支援課長が委員になっていた訳ですけれども、組織変更の結果、子育て推進課と子育て支援課の名称が変わりましたので、要綱も子育て推進課長に直したということになります。

それから、文学館の宮川哲夫展の実施報告を行ったところになります。

以上が教育委員会の報告です。

それから、その他として町田市子ども読書活動推進計画推進会議が7月14日に開催されました。内容的には、先ほどあった新しい委員の方の委嘱を行って、各課から2014年度の取り組みを報告していただき、さらに第三次子ども読書活動推進計画ができていますから、そちらの取り組みについて情報交換を行ったということが主な内容になります。

それから、町田市の予算についてということで資料4をご覧ください。これは前回お話しに出た内容を、どこまで参考になるかというのはありますけれども、簡単にまとめたものになります。

まず1点目、一般書と児童書の購入冊数ということで、この5年間の資料を経年を出してみました。本当は金額ベースで押さえられればよかったのですが、一般書と児童書についての金額ではしっかり押さええていなかったのが、冊数で押さええて何冊購入したか、全体でそれぞれ構成比はどのくらいかということをお示ししています。児童書につきましては、資料費は減少している訳ですけれども、おおむね20～21%程度は児童書を確保しているということで、全体の中で資料費が減ったから児童書にしわ寄せをするということではなく、全体の中で構成比は変えずに購入してきているところになります。

2点目が町田市の一般会計予算の推移ということで、こちらは2011年度から2015年度の予算でお示ししています。資料としては、毎年、当初予算を作成したときに「予算概要」という資料をつくるのですが、こちらから引っ張ってきました。

①としては款別予算額ということで、市の一般会計のどのようなものにお金をどのくらい使っているかということで款別がよろしいかと思って示しました。例えば図書館で言えば、10番の教育費に当たりますので、教育費のこの5年間の推移があります。見ていただくと、やはり3番の民生費が明らかに大きく伸びているということです。民生費なので、いわゆる福祉関係ですね。子どもさんもそうですし、いわゆる社会福祉とかその辺もそうですし、あるいは国民健康保険は、その会計だけだと赤字になるので、一般会計から繰り

出していますから、そういった費用も民生費にカウントされると思います。

②は、①は金額——予算額ですけれども、それを割合で見たらどのくらいになるかということですので、例えば2015年度で言えば、民生費が半分以上を占めているという状況、教育費は10.5%、そのような状況になっています。

次のページが前年度との増減がどのくらいあるかということ、④が対前年度の増減率ということになります。

3 ページ目に、全てではないですけれども、こういう理由で予算が増えていますという増の要因だけ、「予算概要」に大きく載っているところだけ抜き出してみました。教育費だけは減の方も載せています。ということで、民生費のところを見てもらうと、保育所の入所児童数の増加に伴うとか、国民健康保険事業会計への繰出金とか、そういったお子さん関係の費用が大きいのかと思います。

教育費も、2012年度と書いてあるのは2011年度と比較して2012年度がどういう動きをしているかということになりますけれども、教育費も2012年度から少しずつ減っていますけれども、例えば2012年度だと鶴川緑の交流館は教育委員会ではありませんけれども、費用としては教育費になっているので、その辺の費用があったり、2012年度から2013年度にかけては、鶴川緑の交流館の整備が終わったのでその辺が減っていたりというような動きで予算は増減していますけれども、やはり全体で見れば民生費が増えているということ、残念ながら教育費も減って、ここ数年は横ばいという状況にあるのかなというところがあるかと思います。

館長報告は以上でございます。

○山口委員長 ありがとうございます。

それでは、今の報告事項を次第の順番で確認していきたいと思いますが、まず最初の議案審議事項のところ町田市子ども読書活動推進計画推進会議委員の委嘱、さらには図書館協議会委員委嘱、文学館運営協議会委員の委嘱については、単なる報告事項ですので特に問題はないかと思います。

引き続きまして協議事項、これは協議事項ですけれども、文学館のことですので協議会としては確認程度しかできませんけれども、市民文学館運営協議会への諮問についてということについては何かございますでしょうか。

○久保委員 何か特別な問題がありましたか。文学館運営協議会で何か話題になったことがあったら教えてください。

○近藤館長 7月3日の教育委員会で文学館運営協議会委員の委嘱の議案と協議事項で諮問事項のお話が上がっていた訳ですけれども、特段教育委員会の中では何か質問があったとか、そういうこともなく了承されたところです。

○山口委員長 10年を経て今後10年間のあり方ということですが、委員長から質問ですが、この諮問はまだ文学館運営協議会には出されてはいない、これから出すのですか。

○中嶋副館長 まだこれから、7月の終わりか8月の頭に協議会を開きますので、その時点で委員の皆さんに集まってもらって、今後10年間についてということをお話し合ってください予定です。まだ協議会を開いていませんので、まだ直接は。

○山口委員長 この諮問は、いつまでに答申を出すのですか。

○中嶋副館長 基本的には2カ年、私の伺っている範囲では、8月1日にここでやりまして、2年間、2年後の7月までの任期になりますので、そこまでの間という形になります。その中では、当然今後10年間をどうするかということをお話しただけ訳ですけれども、もう1つは来年10周年事業も控えていますので、そちらをまず先にお話ししながら動くような形になってくるかと思えます。ただ、まだ正式には動いていませんので、その中で検討していただくような形になると思えます。

○山口委員長 ありがとうございます。ちょうど協議会も8月から新しい期に入りますけれども、文学館と図書館というのは一蓮托生といいますか、読書という点でも共通、つながっていますので、ぜひそちらの運営協議会の状況なども協議会に話していただけだと思います。我々としても注視したいし、来年10周年というのは、文学館として何かされるのは当然ですけれども、図書館全体として何かそれに絡めたことはお考えでしょうか。

○近藤館長 それについては、まだ具体的に検討はされていないのですが、一緒に何かイベント的に盛り上げることができればいいかなとは考えていますので、今後検討したいと思えます。

○山口委員長 やはり近くにある施設ですし、子どもまつりのときも両方呼応してイベントを盛り上げていったのでありますから、ぜひ10周年に絡めて図書館も含めて、地域館も含めていろいろ宣伝ができるといいと思えます。

協議事項についてはほかによろしいでしょうか。

では次に、報告事項です。

まず、第二次町田市子ども読書活動推進計画2014年度取組状況報告書、お手元に白い冊

子があります。こちらです。これは大部なものですので、ここで精査するという訳にはいきませんが、これにつきまして何かご質問、ご確認になりたいことなどがございましたらお願いいたします。

これにつきましては、後ほど委員長報告のところでも触れたいとは思いますが、この場で先に何か確認することがあればご発言をいただければと思います。

ちなみに、これはもう既に第三次でこちらの黄色い表紙の方、第三次町田市子ども読書活動推進計画が動いている訳ですね。

○近藤館長 はい、そうです。

○山口委員長 こちらがありますので、前回の会議では、こちらについて意見聴取ということで進められたのですが。

では、この件は今すぐここでなかなか出しにくいと思いますので、この後、委員長報告で細かいことがありますので、そちらでまた改めて質疑をお願いしたいと思います。

○鈴木委員 この内容が具体的にはわからないのですけれども、この推進会議は年に数回しか集まりをしていないのですか。

○山口委員長 私もこの7月まで委員だったのですが、年に2回です。その件についても後で報告したいと思うのですが、これは年度単位で5カ年計画。

○鈴木委員 各関係団体が報告を出して、この次はこういうことをするというぐらいの集まりでしか、これだけの内容のことを一々それぞれの団体がその場で報告したり、今度はこういうことをしますという話がある訳ではないのですか。

○山口委員長 団体というよりは行政の各部署ですね。もう入り込んでしまったからこちらでお話ししますけれども……。

○鈴木委員 こんな立派なものができるのに活動が……。

○山口委員長 話が分かれてしまうと議論が散漫になりますので後でまとめましょう。

よろしいでしょうか。では、この件についてはまた後で触れたいと思います。

それから、報告事項の2番目の町田市子ども読書活動推進計画推進会議設置要綱の一部改正、これは先ほど館長から組織改正によるものということですので、問題はないかと思いますが、よろしいでしょうか。

あと、その次の文学館での展示会の実施報告につきましてはいかがでしょうか。

では、私から質問です。今回の宮川哲夫展、私が聞き漏らしたのかもしれませんが、これは実施報告ということで、何人ぐらい来館者があったのかとか、そこら辺の情報をいた

だければと思いますが、いかがでしょうか。

○中嶋副館長 文学館の報告なので資料はお付けしなかったのですが、教育委員会で報告したものと同一内容のものがこちらにございますので、簡単にご説明をさせていただきます。

宮川哲夫展は、4月18日から6月28日までの61日間開催いたしました。観覧者数は4525人です。1日平均74.2人ということになります。文学館はそれぞれの展覧会に何人の観覧者がいらっしゃるのか、目標を設けています。目標は6000人でしたので、75.4%の目標達成率で、残念ながら目標までは至っていない状態です。

関連の事業といたしましては、記念対談とか講演会とか、一番大きかったのは、歌手さんの日程の関係で千秋楽の前日、6月27日にやった記念コンサートが180人いらっしゃったという形ですけれども、こちら辺であるとか、あとはレコードの鑑賞会とか、いつもやっておりますギャラリートークなどをさせていただいて、それぞれ参加者があったところでございます。

開催の特徴点としましては、宮川哲夫さんというのは皆さんは結構ご存じだとは思いますが、ぎりぎり私の世代ぐらいまでかなという感じなので、やはりいらっしゃった方は60歳以上の方が中心であったということです。もともと宮川さんは大島の方なので、大島は町田市もいろいろつながりがあって、リス園のリスをもらったりしているのですが、故郷の大島の方であるとか、宮川さんは先生でいらっしゃったので、そのときの教え子の方などもいらっしゃってお話などを伺ったというふうには聞いております。

資料は約200点出させていただいて、一番大きかったのは三田明さんにコンサートに来ていただいて、そのときに180人のお客さん——お客さんというか、コンサートですからホールに来ていただいたような形です。あとはレコード鑑賞会であるとか、地元の方が蓄音機を貸してくださったので、それが使えたというのはおもしろかったかと思っております。

○山口委員長 ありがとうございます。この件につきましてはいかがですか。よろしいでしょうか。

できればまた何か展示がございましたら、簡単で結構ですので、こちらにもよろしくお願いたします。

それでは次に、館長報告のその他というところで、町田市子ども読書活動推進計画推進会議、前回の会議につきまして、私の方で報告も兼ねますので、そちらでまとめてお話し

したいと思います。

2番目に町田市の予算ということで本日資料をつけてくださいましたが、これにつきまして委員の皆様から何かご意見がございましたらお伺いしたいと思います。鈴木委員から出ている資料もありますので、後でまたそちらでも予算の話は出るかと思いますが、まずこの場で確認等がございましたらお願いいたします。

○久保委員 資料をつくってくださってありがとうございます。ただ、一般市民の私としては、こうやって数字がざっと出ていて、何費とかいう感じで出ているのは内容がなかなかわからないもので、これからかみ砕いて知りたいなど。要するに、鈴木さんがつくってくださったグラフを見ると、図書館の予算が減っている訳で、そこら辺は大きな問題だと思うので、もっと具体的にいろいろわかって要望するなりしていきたいと思うのです。これではなかなかわからないなど、でも、教えていただいて本当にありがとうございますということで感想です。

○山口委員長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

私から、前回の協議会のときに質問で、こういう資料の中に児童書の比率、また予算ということでお話があって調査をお願いしたのですけれども、今日一番最初のところに出ている「一般書・児童書購入冊数」ですね。金額ではありませんけれども、冊数だけでもはっきり傾向が出る訳で、全体の構成比、一般書と児童書の構成比で言うと2割前後を推移しているという点では変わりがない。だから、町田市の図書館として選書の中で児童書を減らすとか、そういうことはしている訳ではないというのはわかる訳です。

ただ、一方で冊数が相対的に減っているというのははっきりわかる訳です。1万2000冊から8500冊というのは相当大きいのではないかと。それが結果として資料費の削減、また予算の削減につながっているのではないかと思うのです。ですから、子ども読書活動推進計画推進会議でいろいろな議論を聞いていますと、子育て環境などをつくって子どもを例えば保育の面で予算を落としていくとか、いろいろなアイデアが出てきて、それについて計画はできてくる。

これは、一方では、子育て、子どもが育つ上には、前回の協議会で出た読書というのは子どもの心を育てるという側面ですね。そこら辺の基盤がだんだん脆弱化しているような気がしますね。やはりこうやって数字に出ると非常にそれがわかりやすい。何となく雰囲気をつかんでいた部分がはっきり見えてきたという感じがします。さっき久保委員がおっしゃったように、こういったものを積み重ねていって、次にどういうことを我々としては

考えなければいけないのかとか、あとはどういう情報をどうやって発信していくべきなのか、前回は清水委員がやはり現場でそれを肌で感じられています、こういうふうに数値と結びつけて理解していくことが大切かと今拝見して思いました。

○鈴木委員 もっとこのことは後で見直されますね。

○山口委員長 そうですね。では、また後でその他のところで協議事項で議題にさせていただきます。

では、館長報告に関しては確認等はよろしいでしょうか。

引き続きまして、委員長報告であります。

○市村委員 済みません、戻って申し訳ないのですが、さっきの議事録確認で1点よろしいですか。ちょっとうっかりしていたのですが、第19回の定例会議事録の5ページ、真ん中よりちょっと下のところに多田委員の質問で図書館費のことが出ていますけれども、たしかこれは私が質問したというふうに記憶しているのですが、もっと前に言えばよかったのですが、たまたまさっき見ていたら気がつきまして、「いただいた表の一番下のところ」云々のところでは、

○山口委員長 ここは音源から訳しているの、もとの音はとってありますね。

○事務局 はい。

○山口委員長 では、事務局の方で後で確認してください。そうしますと、第18回の方はもうオーケーなので公開してしまっていて結構ですが、第19回はそこだけ事務局で確認していただいて、委員に連絡した上で、それで了承ということでやってください。その方が確実ですから。

○事務局 はい。

○多田委員 申し訳なかったのですが、細かい発言は結構抜けていました。

○山口委員長 では、それで処理します。

○事務局 はい。

○山口委員長 それでは、議事録につきましてよろしいでしょうか。

それでは、次に移らせていただきます。

提言書は後にしますが、委員長報告で3部ございます。まず、生涯学習審議会の報告と先ほど館長から報告がありました第9回町田市子ども読書活動推進計画推進会議の報告、それから7月6日にごさいました図書館問題研究会の大会に出席いたしましたので、簡単な感想をということでお話ししたいと思います。よろしいでしょうか。

1 番です。生涯学習審議会ですが、現在、1 年経つのですけれども、昨年8月に地域社会の課題に対する生涯学習のさらなる充実に向けた仕組みについてという諮問を教育長から受けております。この5月までは、町田の各地域における生涯学習の実情などについて、まずは知識を深めるということでヒアリングや調査、さらにはその情報をもとに委員全体で議論する。それぞれの立場が違いますので、オープンカフェという形式でいろいろと意見の交換、すり合わせなどをやりました。

5月26日、大分前になりますが、このとき、私は仕事の関係で出席できませんでしたので、先だって報告書が上がってきました。それにつきまして簡単に報告をいたしますと、ちょうど年度が切りかわりましたので、委員の一部が交代しましたので、その委嘱などがありまして、あとは今年度2015年度の審議会実施スケジュールの確認が行われました。こちらの審議会は年6回ということで、来年の3月までに答申を出すという方法で作業を進めることになっています。

5月26日の会議では、答申内容の再確認、要するに8月18日の答申に向けたことについて確認をするとともに、今まで行ってきた審議会の内容の確認、さらには今後答申を出すに当たってどういう方向性の考え方でまとめていくかということを出席委員の間で議論するという形で進められております。

実際、平日ですので委員全員が出席するというのはなかなか難しいのです。あと、こちらの協議会もそうですけれども、基本的に委員長が中心でスケジュール調整になるので、私の場合はかなりスケジュールが厳しい。本当はそういう人間が委員をやってはいけないのだらうと思うのですが、欠席せざるを得ません。実は今月末も30日にあるのですが、今年の夏場はそういう作業に出られないので、それでは図書館協議会、つまり図書館から生涯学習審議会にかかわっている立場として余りに無責任であるし、意見を反映させることができないものですから、欠席者の意見も何かアンケートでもとったらいかがでしょうかということメールでお知らせいたしました。

そうしましたら、6月から7月にかけて委員向けのアンケートということで実施してくださいまして、それにつきまして今日添付いたしました2枚のアンケート、別に公にするべきものでも何でもなし、私の個人的な考えを書いたものですので、これはあくまでも参考にお読みいただければいいのですが、私、こういう点を指摘しましたということでポイントです。最初のレジюмеをご覧ください。

今後の生涯学習に向けての方針ということですので、生涯学習センターは1つしかあり

ませんので、図書館は生涯学習施設として町田市ではかなり大きなウエートを占めている。ですから、図書館を意識した論点を3つ出しておきました。1点は、生涯学習を通して民主主義社会における市民の自立を支援する。公立図書館というのは、市民の自立を助ける、これが一番重要な図書館の目的だと思うのです。ですので、生涯学習も、当然その中に含まれている、一緒だと思うのですね。

ですから、そういう立場で議論をしていかなければいけませんよということを今さらながら申し上げておきました。そうしないと、市民を教育するという表現がたびたび出てくるのです。それが私はすごく引っかかりまして、やはり違うのではないかという気がするのです。もちろん、余り深い意味を皆さん考えないでお使いになっているのだと思うのです。それなので、図書館に関して言えば、市民の自立を助けるという立場なのですよということですよ。

2番目、生涯学習に関する情報の集中と提供、実はこれは今まで審議会の中でもたびたび触れられていたことで、特に町田の場合はホームページにいろいろと問題があった訳ですが、図書館が春から独立したホームページになって情報発信が以前より非常にうまくなった。ですので、そういうことも提言の中に入れておく必要があるのではないですかということを書きました。

3番目、生涯学習を推進するための財政的基盤。お金のかからないようにやりましょうというコンセプトがあちこちに見えるのですが、でも、やはりないとだめですよということはしっかり書き込まないといけないだろう。我々は今、図書費という問題で実感をしているところですので、そういった観点を他の機会に少しずつ認めてもらえるようにしてみたいなと思いました。

こういうことで回答を出しておきましたが、実際にそれがどういう形で答申の中に盛り込まれていくのであろうか、または議論の対象にしてもらえるのかというのは、今後、9月下旬の会議以降で動くと思いますので、またその会議が終わりましたら、いずれ報告があるのではないかと考えております。

まず、これが1点です。生涯学習審議会についてはいかがでしょうか。実際に私も26日の会議に出ていないので、質問を受けても私も答えられないのであれですが。

○鈴木委員 この審議会には何人参加されているのですか。欠席の人がいるのでしょうか。けれども、定員というか、人数的には大体。

○山口委員長 今ここに資料を持ってきていないので、正確な数字は出せないで申し訳

ないのですが。

○鈴木委員 感じとしては。

○山口委員長 十五、六人いますね。市民公募の委員が2人、あとは社会教育委員が全員入っている感じですかね。済みません、そこまでの資料を用意していなかったもので。

○鈴木委員 どれくらいの人数で、年に6回しているということで、実のある審議会が行われているかどうかというのを何となく判断しようかなと思ったのですけれども。

○山口委員長 人数の多さは関係ないと思います。次の子ども読書活動推進計画推進会議も人数は多いですけれども。

○鈴木委員 余り多いのは良くないと思って、十何人というのはほどほどに。

○山口委員長 むしろ、どういう方が、どういうスタンスで来ているかということが重要だと思います。生涯学習の方は、正直発言は活発です。生涯学習にかかわっている方たちなので、どんどんしゃべります。あとは、園田委員長は非常に会議の運営が上手なので、ほぼ全員が何か発言するという形で動いていますので。

○鈴木委員 こういう提言、ご意見を出されたものが拾われたりするかどうかとちょっと思ったので質問したのですけれども、そこでまた欠席者の意見もこうだといって、さらに討議が行われるのかどうかと思って、実のある意見を出して下さったのが生きるかどうかと思って質問しました。

○山口委員長 それは単に書面で出すだけではなくて、やはりもう少し違った方面からも発言をすとか、情報を入れていくとかあると思いますので、今後それは考えたいと思います。

では、このテーマはよろしいでしょうか。

続きまして、先ほども話題になりました子ども読書活動推進計画推進会議につきまして、まず簡単な報告をさせていただきます。

内容につきましては、先ほど館長から報告がありましたので、私からは、ポイントの報告と私の発言だけ報告します。先ほどの皆様に配付されている白い計画の取り組み報告書をご覧になりますと、目次のところを見ると31取り組み事項がある訳です。これにつきまして各担当部署から順番に報告するという形で行われました。7月14日の第9回は、既にもう終わったことの取り組み結果の報告ということになります。ですので、むしろ第三次の活動について確認をするということで、委員長の方では会議の運営をされておりました。

ポイントは、そこに書いてありますが、第二次の取り組みの取組番号31番「子ども読書活動推進窓口」の設置というのが第三次になるとなくなるのですね。出てこない。これについては増山委員長から指摘と質問があった訳ですが、実際には5年間の活動ということで、第一次、第二次、第三次と来ていますので、その中で実際にこれが窓口として児童のところになるということだそうですが、窓口としてそれほど気にしなくなった。要するに、ふだんの業務の中で、それについて十分やっつけていけるということで、取り組みとしては第三次では入れなかったというようなニュアンスになっています。ですから、そこら辺の事情は余りよく私のみ込めなかったのですけれども、実際には取組結果で49ページを見ると、年度で2010年度、2011年度、2012年度、2013年度、2014年度と5年間ありますが、取り組みとしては例のとしょかん子どもまつりで事務局を担当、連絡調整を行いましたという取り組みだけになっているのです。ですから、あと内容、当初の目標は窓口で情報センター、ボランティアのサポートやコーディネーター的業務を行うとなっていたのですが、実質的には平常業務の方で行っているということなのだろうと思います。これは実際に第三次の計画をつくる時に、市民意見とかを聴取しているのだろうと思うのですが、私は計画作成には全く関与していない訳です。

ですから、さっき鈴木委員から質問がありましたけれども、年2回開催でいろいろなところから人が集まってくる。図書館協議会からは1人出る訳ですが、あとは保育園、小学校、幼稚園、中学校、学校側、PTA側と出るのですけれども、年2回ですので、5年間やっていくと委員の交代も当然出てしまいます。あと、私の発言のところにも入れておきましたけれども、会議の目的が委員の中で共有化されていないのではないかな。だから、議論になりにくいというか、報告を聞いて質問もぱらぱらという感じだったので、何のための会議なのかというところをもう少し考えないと形式的になってしまいますから。

私の発言の中で出しておきましたが、幾つかの取り組みに共通したのですけれども、やはり情報提供の方法が紙媒体で配布しましたというのが多かったのですね。それは図書館だけではなくて、子育て支援の結果でも出るのですが、やはり利用者が必要とする情報を必要なときに適切な形で伝わるような仕組みを考えると、紙だけではないのではないかなということは申し上げました。

もう1つ、これは退任するに当たっての挨拶をということで、会議の運営について注文をつけた訳ですが、先ほど言ったように、出席した委員がどういう目的で今この会議に集まっているのかという目的をもう少し共有化するために、方向としては会議の回数を増や

すというのも1つですし、増やさないまでも事前の情報の共有化があると思うので、2時間で三十幾つもの取り組みをその場で精査するなどというのは無理ですから、やはり事前に送られてくる資料をちゃんと読み込んでいかないと発言などできっこないのです。それがなかなかうまくいっていない委員もいらっしゃるのかなというのが感想でした。増山委員長が1人で頑張っている感がありましたけれども、私も及ばずながら質問させていただきました。

○多田委員 それが今、委員長が言われた目的が共有されていないというところに……。

○山口委員長 そうですね。だから、下手をすると、子ども読書活動推進計画というのが計画をつくることに意味があるようになってしまって、やはり実施しなければ意味がないし、結果として子どもが少しでも読書に親しむ環境が整備されるころへつながっていく必要があると思うのですが、取り組みを見ると、そこそこいろいろなことはやっつけ、一気に変わるということは当然ないだろうと思います。

だけれども、やはり子どもの読書が大切だということは出席している委員はよくおわかりになるので、ただ、こういう活動がありますよということをもっと伝えていくことをしないといけない。やはりPTAの委員が新しく委員になって初めてそういう活動を知りました、初めて学校図書館を知りましたという市民の方、それが現実だと思うのです。むしろ図書館協議会などは、皆さんよくおわかりになっておられるので、ご存じない方に発信していくということが必要ではないですかということはお話をさせていただきました。

○清水委員 私も、正直に言って子ども読書活動推進計画というのは、どういうふうにして進んでいるのかということがいまだによくわからないのですけれども、子ども読書活動推進計画をやりますと言って、それでこの取り組みが出てきたのか、取り組みを集めて読書推進計画としているのか、どちらなのかという感じがいつもしていて、学校図書館のことなどに見れば、もともとそういうことはやっている訳です。

ほかの自治体などですと、子ども読書活動推進計画として学校図書館に司書を置きましようということを入れましたという取り組みの仕方があるのですけれども、町田市のものを見ていると、今までやってきたものを、あっ、これもそういうものなのだよねみたいな感じで集めているような気がしてならないのですけれども、どれが計画としてやっている事業で、どれはもともとあった事業がここに載ってきているのかという分け方はできますか。

○山口委員長 正直言って私もよくわからないところがあります。というのは、今回報告

が上がっているのは第二次で、現在は第三次ですね。5カ年計画なので、もう10年やっていることになる訳です。全体を俯瞰されているのは多分増山委員長だろうと思うのですが、やはり私もこれを見ていて、確かにわざわざこういう計画として立てていないときからもう既にあった取り組みをグループ分けしているところもあるし、これができて縦割りのところを、少し縦の壁を乗り越えているところもあるなというのがあります。

例えばブックスタートや何か、図書館以外のところが子どもの本にかかわる事業をやるときに、どういう本がいいかなどというのは図書館に相談をするという形で進めています。ただ、それだったら読書に関することは全部図書館でまとめてやれるような取り組みがいいのではないかと思うのですけれども、恐らく各課それぞれの予算で動いている訳でしょうから、事業は動くけれども、お金は出さないよとなると、図書館がますます大変になってしまうということもあるかと思うのです。

あと、委員が2年で変わる感じですので、5カ年計画ですから5年を通して見ていないとわからないというのがあると思うのです。今回、私は退任することになりましたけれども、ほかに随分退任される委員もいらっしゃる。通しでずっとご覧になる方は、それほど多くはないと思うのです。ですので、そういう視点をどうするのかというのが今後の課題なのではないかと思います。

あと、先ほど清水委員からのご発言にもありましたが、学校図書館に関して言えば、今回も学校司書の問題が出ました。ちょうど学校の校長先生たちもいらっしゃったので、先生方を巻き込んだ議論になった訳ですが、結局は清水委員から言っていたとおりで、指導課としては国がどういうふうに行くかわからない時点では、積極的に司書を配置することはできない。要するに身分ですね。資格として何が要件か。ですから、こちらからは横浜市と神戸市の事例を申し上げまして、確実に成果は上がるのですよということをお話しさせていただきました。

○鈴木委員 去年の外部評価のときにも言ったと思うのですけれども、それぞれがやっていること自体はすごくいいけれども、行政機関同士がもっと連携をすれば効果がもっと上がると思うし、これがないよりはあった方が……。どこでどういうことをしているのか、そういうことも1つにまとまっているのですけれども、それぞれが単独でやっているだけということだと、ただまとめているということで、こういうことをしますと1回の会議でやって、こういうことをしましたという報告をしているだけというのだと、これ以上の効果が上がらないから、逆に窓口をなくしたとなると、もうばらばらのまま勝手に進ん

てくださいというような、さらにそれが進んでしまうのではないかなど。

新国立競技場ではないですけども、本当に責任を持ってまとめるところがあって、そこをもう少しやるところがなければ、ただ束ねているだけみたいな感じですね。だから、これをもっと進めるのだったら、もう少しきちんとそういうところを責任持って進めるところがあったらいいのではないかと思いました。

○山口委員長 あともう1つ、今日は配付していませんが、当日会議の席上で増山委員長から配付ということでもいただいたもので、平成25年5月、「第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が閣議決定ということで、文科省のホームページからとれるのだそうですけれども、かなり詳細なA4で9ページにわたる課題、かなり小さい字で9ページ、当日渡されてその場でお読みになった委員さんがどのぐらいいるのか、きっちり内容がありますが、これに第二次の全国的な取り組み状況が簡単に提供されていて、課題点も出ております。

また、第三次に向けて何が必要かということが書かれております。これを始めてしまうと残りの時間が全部なくなってしまうと思うのですけれども、財政的な問題とか司書、司書補などの専門的職員の配置とか、図書館については今まで言われているところがまた記述されていますし、学校等という点で言えば、保育園から小中・高等学校まで対象にできるのではないかということが書かれています。さらに、その部分の一番最後に、司書教諭の配置とともに、学校図書館担当職員、いわゆる学校司書の配置についても触れられております。ですから、国の方針としては、それを進めたいというのがわかる訳です。

あと、最後の4番目のところに、民間団体の活動に対する支援ということで2つ中身があります。ですので、これはまた後で回覧またはホームページでご覧になれると思うのですが、一応このようなものがあるということで、公立図書館にも関連しますのでお返しします。

それでは、子ども読書活動推進計画推進会議については終了します。

○久保委員 ポイントのところでも山口さんが発言された中で第三次計画では「子ども読書活動推進窓口」がなくなると書かれています。今、鈴木さんも言ったように、山口さんもおっしゃったけれども、私もこれは非常に残念だと思うのです。これはなぜなくしたのでしょうか。

○近藤館長 子ども読書活動推進窓口という第二次計画での取り組みがあって、第三次ではそういう取り組みは立てていない訳ですけども、だからといって図書館でも、そもそ

も子ども読書活動推進計画というのは、図書館が全てやるということではもちろんない訳で各課がいろいろな取り組みをやっていく。ただ、図書館が何ととっても調整役とか、いろいろな役割は担っていかなければいけないとは思っています。

第三次で取り組みから外した理由ですけれども、推進窓口ということの特段うたわなくても、その辺の連携はしっかり児童担当の方でやっていきますというところを意識してあえて挙げなかったというところもあります。ただ、ここだけ見てしまうと、後退と受け止められかねないところも事実だと思うので、その辺は今後の活動の中でそういう誤解は解いていきたいと思っております。

○久保委員 ただ、なぜこの文言がなくなったのか、非常に残念です。児童担当の方はとてもやる気があるし、やっていたらいいし、そういうものが芽生えてから、そういう実績もある訳だから、それは長期的な計画としては育てなければいけない。それが文言だけであって実質は変わらないのですよ、今までどおりやりますと言われても、この文言があるということは大切なことだと思うので、これは残すことを検討してもらいたいと思います。いかがでしょうか。

○鈴木委員 そういう立場の人が、立場のところがこのこのことを一緒にこことやってくださいと、例えば保育園の何かとつなげるのも、公的に一応窓口となっているところが口を出すと云ったらおかしいのですけれども、そういうことをアドバイスしたりすると、そういう事務局というか、窓口ではない、ただ図書館として言うというのとはまたちょっと違うのではないか。お役所は組織で動いているというようなどころがあるので、公的にそういう立場のところやれるということと——そこまで今児童のところは時間的というか、人的に余裕がないから窓口になっていても、今までやっている子どもまつりや何かのときのいろいろやってくれること以上にそんなにできないということがあるのかもしれないのですけれども。

○近藤館長 児童担当に限らず、なかなか図書館員は忙しいというか、あれなのですけれども、とはいえ仕事ということでしっかりやっていかなければいけないのです。ただ、読書活動の推進窓口という件で言えば、例えばその看板を掲げていても、先ほど鈴木委員もおっしゃったけれども、役所というのは組織で動いているところもあるので、ある組織を超越して、その下に図書館から直接という話は難しいと思うので、そこは順序を踏んで窓口的な機能でやっていくということは当然あると思います。

とはいえ、この推進計画をつくったり、取り組み状況の取りまとめをしたりするという

ことの中で、この10年間で格段に市役所の中の各課の連携はとれ出していると思うのですね。そういったことで窓口がなくなって、そういう意味ではありますけれども、つながりはしっかりでき出したとは思っていますので、例えば我々図書館としては、一般市民の方とかボランティアの方との関係が大事だと思うので、そちらの方から何かお話があれば、事業担当がしっかり受けて、例えば具体例としてどこかの保育園という話は、もしかしたら子ども生活部を通さなければいけなければ、そこを通してみたいな形になるとは思いますが、そういったところの担当者間の連携、あるいは課と図書館との連携というのはとれ出しているので、先ほどの繰り返しになりますけれども、そういう実態の動きとしてはしっかりやっていくというところをご理解していただいて、第三次計画はもうできてしまいましたので、これを今から変えるということではできませんので、もちろんここから5年間やってみて、当然また次の計画というのがありますので、その中でより望ましい形を求めていくというのは必要だと思いますけれども、当面この形で進めたいと思っています。

○山口委員長 よろしいでしょうか。

今、館長からもありましたけれども、第三次計画ができて動いてしまっていますので、またいろいろと現場のレベルで読書の取り組みとか、市民とのかかわりがありましたら、それはむしろ図書館協議会がありますので、その中で取り上げながら整理していく。検討して必要があれば提言していくという形でいきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

最後に一言だけにしますが、3番目ですが、図書館問題研究会の大会に参加してまいりました。今年は東京大会で、第2分科会は住民と図書館というテーマでして、「市民と図書館のいい関係」、私はいい関係というのはどういう関係かなと考えながら行ったのですが、図書館友の会全国連絡会の協力という形でやっていました。

4人の方の報告とそれに対する討議が行われたのですが、私が一番関心を寄せたのは、下関図書館友の会の田口美春さんの「下関市立中央図書館を見守り続けて」、これは何をお話しになったかということ、実は下関市立中央図書館というのは指定管理になっていましたが、それを直営に戻したのです。あっ、こういう市民と行政の関係があるのだなということでちょっとおもしろかったのです。下関図書館友の会の方たちが地道な活動を続けておられまして、行政サイドにも働きかけを続けられていたようですが、一番大きかったのは、市長さんや行政内部の方たちの中でやはり直営は大切ですねという話が出てきたという発言があって、議会の方でもそういう認識が広がって、公立図書館というのは、やはり

公共サービスとして直営で責任を持って市がやるべきだという最終的な見解へつながって、直営に戻すということになった訳です。

報告者の田口さんは大変控え目に御報告をされていましたが、あくまでも自分たちは裏方ですよというスタンスでお話をされて、特に印象的だったのは、どんな人にも聞いてもらえる言葉で言わなければだめだ、そのとおりだなと。つまり、賛成する人は当然賛成で聞いてくれるのですが、そうではない人に聞いてもらえる言葉、聞いてもらえる雰囲気でお伝えするというのは、私は自分も勉強をさせてもらいました。そういう事例が幾つかあります。

ちなみに4番目のところに、昨年もございましたが、日本図書館協会の図書館大会が2年連続東京大会でして、こちらも市民と図書館という関係のテーマになっています。隣に案内がございますが、今回は伊万里市民図書館の元館長で犬塚まゆみさんをお願いしております、伊万里の図書館をつくったときの館長さんです。市民との関係が非常によくできていて、図書館サービスの面でも評価の高い伊万里市民図書館の館長さんの側から、市民とどういにかかわりを持ち続けていったかというところをいろいろ伺って我々としては参考にしたいということが1つです。

あと午前中、違う部会なのですが、第14分科会の「図書館を語る」ということで、竹内愨先生、日図協の元理事長で、かつ図書館情報大学の名誉教授ですが、「図書館のめざすもの」ということで、公共図書館の意味などをわかりやすく解いてくださる講演をよくなさっていらっしゃいます。その後に嶋田さんという方、私はご本人を存じ上げないのですが、瀬戸内市新図書館開設準備室長、この瀬戸内市新図書館については、最初から直営でいきますよということを宣言してやっています。『出版ニュース』で触れられたところです。幾つかのところで原稿になっています。ですので、先ほどの下関の事例とあわせて、何か学ぶ部分はないかなと思いますので、情報提供という形で載せさせていただきます。

ちなみに、今年は参加費3000円です。安くなりましたので、ぜひお願いいたします。

今の3番目の報告についてはよろしいでしょうか。

○多田委員 先ほどの「下関市立中央図書館を見守り続けて」の田口さんの話ですけれども、一番大事だったのは、わかりやすい言葉で聞いてくださる言葉が大事とおっしゃってましたか。それは普通の市民の人が直営についてわかりやすいということではないと。

○山口委員長 全ての人に対してと言っておられました。

○多田委員 全ての人に対してわかりやすい。

○久保委員 聞いてもらえる、わかりやすい。要するに、いろいろな立場の人がいる訳だけれども、反感を持つ人も賛同する人もいるけれども、そういう全ての人に聞いてもらえる言葉。私も山口さんの報告を聞いていて、あっ、それって確かにすばらしいことだなと。

○鈴木委員 大事なことですね。こちら側の人がといたときに、こちら側の人も……。

○山口委員長 いろいろな立場の人がいるから。

○鈴木委員 賛成はしないけれどもと。

○久保委員 最初から自分がこの立場というのを強く出していない。ご当人が客観性があるのでしょね。

○多田委員 それは難しいですね。

○久保委員 難しいですね。だから、すばらしいなと思いました。

○鈴木委員 難しいけれども、この方はそれがちゃんとできていると。

○山口委員長 そうそう。非常にそういうところは柔軟に対応される。ですから、こういうやり方というか、こういうふうに伝える伝え方もあるのだなと私もすごく勉強になりました。詳しくはまた後ほど。

では、委員長報告は以上で終わらせていただきます。

では、また次第に戻りまして、今度は協議事項に入りますが、まず図書館評価でございますけれども、かねてより私どもが検討を重ねてまいりました提言について進めたいと思います。

では、提言書をお開きください。先に文言を読ませていただきまして、その後、館長にお渡ししたいと思います。

2015年7月23日

町田市立図書館館長

近藤 裕一様

図書館におけるおはなし会活動充実へ向けた要望

第15期図書館協議会委員長

山口 洋

公立図書館の提供する児童サービスの中で、おはなし会は子どもたちが本に親しむきつ

かけとしてその重要性は十分認識されております。そのため町田市では地域文庫や図書館ボランティアとの連携による取組も行われております。この活動がよりよい成果を結ぶためには、おはなし会に多くの子どもたちが参加できるように仕組みづくりや、時代の変化や要求を踏まえた環境整備が不可欠です。そこで第15期図書館協議会では、子どもたちの豊かな読書環境を実現し読書推進をよりすすめるために、図書館におけるおはなし会活動について、以下の点についての検討を要望します。

- 1 各館ごとにおはなし会等のボランティア活動に向けたおはなし会スペースの有効活用を検討し、実現してください。
- 2 各館ごとに地域のおはなし会の情報を収集し、必要な利用者向けに積極的に提供するようにしてください。
- 3 図書館で養成するおはなし会ボランティアの個人に向けて、地域文庫やおはなしボランティア組織の情報を提供し、ボランティアがスキルアップしながらおはなし会活動を続けられるように支援してください。
- 4 地域における子どもの読書やおはなし会に関わる情報を図書館で収集し、ホームページなどを活用して、その情報を必要とする市民に必要な時に伝わる様な仕組みを構築してください。

なお、上記の要望については、その後の図書館各館の取り組みなど、定期的に図書館協議会へご報告いただけますようお願い申し上げます。

それでは、館長にお渡しいたします。よろしく願いいたします。

〔「図書館におけるおはなし会活動充実に向けた要望書」文書手交〕

○山口委員長 引き続きまして、協議事項に入ります。

次第の印刷では「図書館評価について」とございますが、これについては後で引き継ぎ事項という点で発言をしたいと思っております。

まず、さっきから話題になっております予算問題につきまして、ここで15期としては今日が最後になりますので、各委員の皆様からお考えやご感想、またご意見等を受けまして、継続した問題になると思っておりますので、できれば第16期へ引き継ぐべき項目などの確認をしていきたいと思っております。

それではまず、今日配付された資料の中で鈴木委員が作成していただきました一般会計予算と図書費のグラフの資料がございますが、これにつきまして協議をしていきたいと思っておりますが、まず作成された鈴木委員から何か説明もしくは感想などを伺えればと思うので

すが、いかがでしょうか。

○鈴木委員 前回の協議会で図書費が半分ぐらいに減っているということはわかったのですが、それに対して町田市の一般会計予算が不景気でそんなに増えていなくて、逆に減ったりしているのかなと思ったりしたのですけれども、実際に町田市のホームページから調べてみましたら、2009年度から2015年度で比較すると、一般会計の予算は200億円ぐらい増えているのです。ここは全然桁が違うので、並べてあれするのもあれなのですが、規模なりの上下の増えているか、減っているかはこれでわかるかと思えます。

一般会計予算が増えているのにもかかわらず、これだけ図書費が減って、さっき館長が用意してくださったものを見ても、教育費全体も結構減っているのです。図書館とか学校とか建物にはお金がかかって、その分で増えていることを差し引くと、教育費というのは多分ソフトの面ではもっと減っているということで、それがこの図書費にも明らかになっているのかと思うのです。

最近、町田市の広報も出たりしていますけれども、重点事業のプランというのがまちづくりとなっているのですけれども、形に見えるまちづくりはかなりお金が行っていて、目に見えない部分のもっときめ細かな部分とか、図書費だとか学校でも、かなりいろいろな消耗品的な例えばプリントとか何かも、子どもたちにいろいろなものを配ったりするのも大事なのに、その辺もかなり大きくカットされている。

だから、直接子どもたちにかかわる部分で減っていて、子育てを大事にとうたっているけれども、こども園だとか、学童保育クラブなども増やさなければいけないとか、そういう部分に行ってしまうと、それも大事ですけれども、本当に1人1人の子どもにとっての大事な部分がこれだけ減っているというのがすごく、それはどうしたらいいのか考えて、協議会でも何かできるといいなと思いました。

○山口委員長 ありがとうございます。グラフを作成していただいたので非常に動きがよくわかります。説得力のある資料だと思います。これは事前に委員の皆様にはお送りしてご覧いただいているかと思うのですが、ご意見、ご感想を伺いたいと思います。では、砂川委員、いかがですか。

○砂川委員 わかりやすい資料ありがとうございました。

予算のことは大き過ぎてわからないなと思っていたのですが、こういうふうに具体的に表になったりしていると何か衝撃的だなと思います。ただ、結局、個人がどういうふうにしたらいいのかわからないのですね。私たち自身が、どこに要望を出したらいいのかと

か、そういうことがわかっていなくて、まず、本当に小さいことなのかもしれないのですが、私が何も意識しなかったり、知らなかったのと同じように、周りの人たちも知らないということがすごく大きいことなのだと思うのです。なので、1人1人にまず知ってもらい、周りの人に知ってもらいたいということが第一歩なのかと思い始めました。

○山口委員長 ありがとうございます。では、中林委員、いかがですか。

○中林委員 私も今、砂川さんがおっしゃったところに最後はたどり着くのですけれども、教育委員の方にしても、図書館の方はもちろんよく知っていらっしゃる訳ですが、実際に児童書がどういうふうな大事かというのを認識していないと思うのです。それは私もこの前、清水さんがおっしゃったことで、現場では新しい本が入ってこない。そうすると、子どもたちが調べたりするとき、それは問題なのだと伺って、初めて新しく出た本は今の時代を反映している訳ですから、それは子どもにとって成長に欠かせない非常に大事なもののなのです。だけれども、それは言われてみて初めてなるほどと思うのであって、特に教育委員の方にそれは周知徹底していただきたい。

つまり、経済の部分は、幾らもうかったの、もうからないのとすぐ形に出ますね。ところが、今は日本の流れというのは経済一辺倒に流れていますから、そういうときこそなおさら、お金にはならないけれども、子どものときから大人になるまで、前に山口委員長もおっしゃったように、生涯学習というのは子どものときから入るのだとおっしゃって、私もそれは目からうろこという感じでした。

そういったことも教育委員の方にわかっていただいて、子どもの読書というのは、子どもというのは基盤になるものを広くすればするほどなかなかよい子どもが育つのだと思うのです。その基盤をつくるのにはどうしたらいいかというのは、本を読ませる、本を読み聞かせる、やがて図書館に来て本を読む。そうやって自分の世界が、大人が考えていないぐらい、いろいろな分野の世界が広がっていくと思うのです。そういう意味では図書というのはとても大事なのですけれども、子ども大人は毎日の生活に追われていると、なかなかそこまでいきません。それで図書館関係の方とか図書館協議会委員でも、嫌でも何でも繰り返しそれを発信していくしかないのではないかと。

というのは、長くなって申し訳ないのですが、たまたま自分がやっているボランティアで私は本の紹介も担当しているのですが、紹介した本の中に一ノ瀬さんという歴史学者の戦艦大和についての紹介を読んだのです。そのときに「戦艦大和ノ最期」は吉田満さんが書いて、あれは生き残って帰ってきた人たちの心の慰めとして定着したと言ってい

た。ところが、一ノ瀬さんに言わせると、そうではないのだと。あの大勢の人が死んだ大和は、総特攻の先駆けだったというのです。総特攻の先駆けであったということは、命などを何とも思っていない政治家、そのときの軍部の人たちが特攻のための最先端として大和を出したというのです。ところが、出して少いで間もなくアメリカに撃沈されてしまう。そういった事実を掘り下げて、いやでも応でも突きつけていくのが歴史学者の仕事である。歴史学者などというものは、最初から嫌われることを掘り出してやることだ。それを読んでいて、本当にそうだと思います。

そして、それだけではなくて、今度は舞台ができるそうですけれども、「南の島に雪が降る」という加東大介さんが書いた本も、それを読みますと、いかに自分が第二次世界大戦を知らなかったかということがわかるのです。つまり、そのとき戦争を進めたかった人たちは、何でもいいから幾つも幾つも出してどれかが行き着けば、それでいいという感じで船を出していたというのですね。撃沈されても撃沈されても。それほど命を粗末に扱っていた。

そういったことを本当に知らせていくのは歴史家の仕事なのだと考えると、図書館協議会委員とか図書館の方たちは、教育委員会の方や為政者に向かって、嫌われても何でも子どものときからの教育が大事なのだ。子どもの視野とか世界を広げることが民主的な市民をつくることなのだとすることを、相手がうるさいと言うくらいくどく言い続けることが大切なのではないか。そういうふうに思い至りましたのは、山口委員長はいつもそうおっしゃっていたと思うのですね。小さくても前に進むために、やはり周りからやっていくことが大事ではないか。

今、砂川さんがおっしゃったのもそうなのですから、私も、自分のボランティアの仕事を通じて今回は特にそう思ったのです。だから、図書館協議会委員の役割はとても大事だなということ、それから今日も傍聴の方がいらしていますけれども、市民の方に本当に自分が思っていることを声にして出していくことが大事である。そして、それは教育委員の方であれ、政治に携わる方であれ、そういったことを繰り返し聞けば、おやっというふうに必ず変わるだろうと思うのです。変わらなければ人間として申し訳ないです。そのように思いました。長くなって済みません。

○山口委員長 ありがとうございます。では、多田委員、いかがですか。

○多田委員 変な質問で申し訳ないのですが、一般会計予算の2015年度が2009年度に対して増えているというのは、なぜ予算が増えているのかがわからないのです。

○近藤館長 今のご質問は、2009年度と2015年度の一般会計予算の総額を比較して2015年度が増えているという件ですね。それは市全体の財政、事業等で必要な経費が膨らんでいったということだと思いますけれども。

○多田委員 先月、千田先生が町田市の税収が増えているとおっしゃっていたので、そういう意味でということでしょうか。

○近藤館長 歳入、例えば税収がどんな伸びをしているか、具体的に見てこなかったのですけれども、そういった部分も一部あると思います。町田市の場合、ここ数年の状況を見てみると、それほど税収が増えているということにはなっていないのではないかと思います。もちろん、一時期のリーマンショックとかがあったところに比べれば復活しているのかとは思いますが。

○多田委員 他の自治体を見ると、余り増えているという印象がなかったので、町田市の場合にはなぜなのかなと思って質問させていただきました。

○鈴木委員 7月21日の広報には2014年度の財政状態が載ってまして、市税なども計画当初よりも実際は増えているのですね。歳入から歳出も、計画のときは16億円のマイナスだったのですけれども、決算見込み額としては44億円のプラスになっていて、その中身も市税も増えて、それから譲与税とか交付金なども増えて、その他というのは内容がわからないのですけれども、その他がすごく増えているのです。だから、2014年度は増えているのです。だから、それに基づいて2015年度がある程度できるのだから。

○多田委員 多分そのことを先月、千田先生が増えていると一般的におっしゃったのだけれども、普通の市民の感覚で言うと、あれっ、何で収入が増えているのかと。

○鈴木委員 それでこれを調べてみたのですね。実際にどうか。これは収入に沿って支出も出ている訳で、だから、増えている、財政状況はよくなっているはずなのに減っているということ。

○山口委員長 今の多田委員の指摘はすごく重要で、確かにそのところが非常にわからないのです。

○多田委員 そこがわかりにくくて、千田先生も先月おっしゃっていたから、行っている方は福祉とかに多くということだったので、だから、資料費が減っているというお話があったので。

○山口委員長 あとは、前に館長からご説明のあった枠予算ですね。部単位で枠をはめられてしまっているのです。要するに、言い方は悪いけれども、決められたパイの奪い合い

ではないけれども、生涯学習部は奪い合いではなくて譲り合いでしょうけれども、結局、図書館が一番お金がかかるのは当然だと思うのです。生涯学習のことに言えば、センターが1個しかないですから。だけれども、最初から与えられる枠予算が限られてしまうと、当然それ以上は増えない。中で削っていくと、どこかにしわ寄せがいく。だから、根本的にそこがシステムの限界なのかなと思いましたね。

だから、税収が増えても、それが余りこちらに影響してこないのは、そういう部分もあるし、あとはいろいろと政策的なこともあるのではないかと思います。

○鈴木委員 生涯学習部の予算自体も、2014年度と2015年度を比べると、全体は多くなっているのに2億8000万円ぐらい減っているのですね。だから、何を大事にするかというのが如実に出ているかなという感じですね。

○山口委員長 よろしいですか。では、市村委員、いかがですか。

○市村委員 一般会計予算との関係をとりますけれども、前回の協議会で質問したときとの関連で言わせていただくと、前回も言ったのですけれども、図書館費は増えているのですね。これは予算ベースですけれども、その中で図書費が実額で減っているということ、つまり図書館運営費の中での図書費の占める割合が減っているということなのですね。その辺が多分いろいろ状況、理由、事情はあるかと思うのですけれども、バランス的にどうなのかというのは気になったところです。

図書費のことは前にも言いましたけれども、自治体ですとか市民の文化レベルをはかるバロメーターとして図書館がよく挙げられますけれども、やはり図書費というのは図書館サービスの中でも根幹になる部分ですので、そこが減らされていくというのは私としては非常に残念と言うしかありません。地域館が増えたり、あるいはその分、人を充てていただいたりというところでの取り組みの努力はわかるのですけれども、一方で、こうやって資料費が減らされていくとなると、本当に図書館のサービスの充実と言えるのかどうかというのは大変危惧をしているところです。

この協議会としても何らかの問いかけをしていかななくてはいけないと前に言ったのですが、これはぜひ次期の協議会でも引き継いでいただいて、先ほどのおはなし会の活動についてと同じような要望書を出すとか、その辺、ぜひ議論を深めていただいて、引き続き取り組んでいっていただきたいと申し上げておきます。

○山口委員長 ありがとうございます。今、市村委員がおっしゃったように、図書館のサービスや蔵書、どんなサービスができるかというか、根幹は図書費が欲しい訳ですけれど

も、そのとおりだと思うのです。それを提供できなくなってしまうたら、せっかくいい建物があっても何にもならないですね。ですから、ぜひ次期へ引き継ぎながらということでも考えたいところだと思います。

では、久保委員、いかがでしょうか。

○久保委員 私もぜひ要望書なりを検討することが必要かなと思うぐらい、これは金額のことだけではなくて、何が大切かということで、これだけ折れ線グラフで見るとわかる、こういう結果だということについては、きちんとした言葉で問題提起したいなとも思ったりします。

○山口委員長 ありがとうございます。金額のみならずというところも本当ですね。図書館は何をもって必要とされていくかということをはかに伝えられるかが求められていると思います。

では、清水委員、いかがですか。

○清水委員 皆さんがいろいろお話しされていたのと同じなのですけれども、今もおっしゃったように、図書館をつくったり、システム更改をしているときの予算とそうではない年度の予算と変わっているのが当たり前だと思うのですけれども、そういうものがあって増えているのに、資料費はどんどん下がっているというのは話が別のような気がするのですね。

運営するのに必要なお金というのは、いつでも確保されるべきだと思うのです。それを削ってはいけないとすごく思うのは、学校でも消耗品費だとか備品だとかが減らされたという話があったのですけれども、学校を運営する上で必要なお金として今までだって配付されているはずなのに、それを何分の1というすごく大きな形で減らされていくということ自体が何で可能なのかなと思うのですけれども、それと同じように図書費も、図書費というのは削ってはいけない領域だなとすごく感じます。ほかに今まで削れるところがあったのかということも問題なのかもしれないのですけれども、ほかのものが削れたからといって図書費も削れると考えられるのがおかしいなとすごく感じました。

○山口委員長 ありがとうございます。やはり今まで必要なところで配付された予算だというのは本当ですね。それが状況が変わったからといって削れるものと削れないものがあるだろうと思うのですね。

最後に私から感想になりますけれども、このまま放置する訳にはいかないなというのは1つはっきりしていると思うのですね。協議会は期が変わりますので、ぜひこれは次期へつ

なりたいということ。幸い、今回は残られる委員さんが半分ぐらいいらっしゃいますので、ぜひ今後も疑問点などを新しい委員の方にもお伝えして、まずは共通の理解をつくらないといけません。それで協議会として何か働きかけをしていこうというのが1点。

もう1つは、さっき何人かの委員さんからありましたけれども、やはりこういう現実を知らない方が多い訳です。ですので、大々的なメディアや、そんなことはできませんが、口コミでも結構ですし、関心のある方にこうした方がいいのではないのでしょうかということで、相手の聞きやすい言葉でお伝えいただく。草の根の活動ではありませんけれども、私も実は歴史学者ですので、人の嫌がることをやるのが仕事、調べるのが仕事なので、普段は意外とはっきり言うてしまう方ですけども、やはり皆さんに理解してもらえというのがキーワードかと思います。図書館の応援団をつくっていく、支える市民を増やしていく。そういう利用者がいっぱいいる図書館は、どこの自治体を見ても図書館もすごく魅力的です。

あとは、先ほどから本の問題や運営費の問題がありましたけれども、前に日野の初代の館長さんをされていた前川恒雄さんがご著書『移動図書館ひまわり号』の中で書いておまして、その中で市民とのかかわりの中で前川館長が言うのは、本当に感謝されるのは本だと。私たち図書館員は、その本を提供する自分たちの仕事に誇りを持つべきであるとおっしゃって、そのとおりだなと。さっき市村委員もおっしゃったように、本がなければ図書館のサービスは成り立たないし、本が市民の自立を支えていく。本を読むからいろいろ自分で考えられる。その本がなくなってしまうということは、自立や読書の第一歩を取られてしまうことなのです。ですから、それを守らなければいけないというのは、むしろ当然です。

あとは、久保委員もおっしゃったように、図書館というのは何のためにあるのかということも1度再確認していくことも大切なかなと思います。予算の問題、図書費の問題ですけれども、やはり根本は何のために公共図書館、何で公立図書館なのかというところから考えていくことが必要かと思います。お金の問題だけではないというご指摘は大変大切なことだと思います。

○鈴木委員 広報に、さっき砂川委員がおっしゃった周りに知らせたりとか、みんなに知ってもらおうということの一環かと思うのですけれども、行政経営改革プランでこういう改革に取り組みましたというのが、市民の皆さんからのホームページや代表電話へのお問い合わせ実績をもとに事業課題が抽出できる仕組みを構築しましたというのがあるのです

ね。

だから、ホームページだとか電話で、こういう本がなくて、このごろ図書館の本がどうも減っているという市民の声がいっぱい行けば、それが少しでも反映されるという可能性はあるかなと思うので、そういう仕組みが構築されたと言っているということは、図書館のそういうものもいろいろな事業の1つな訳ですね。欲しい本が少なくなっているというのは完全に予算の問題になる訳だから、協議会としてももちろん出すけれども、そういうことも周りにも言って、本がないとか、そういうことがあったらどんどん言ったらどうですかと。

○多田委員 この書き方は抽象的過ぎますね。

○鈴木委員 すごく抽象的なので、それで拾われるのかどうかわからないけれども、これはすごく取り組んで改革の1つだとうたっているということは……。

○多田委員 お問い合わせはこちらまでと。

○鈴木委員 だから、それぞれの担当のところだから、これだと図書館になるのですかね。図書館に言ってもだめなら、教育委員会に言うか、どこに言えばいいのか。

○近藤館長 市民の皆さんから、例えば資料費が少ないとか、そういうご意見が来れば、一義的には図書館が答えていくということになります。ただ、市長は、そういう声があるのは一応全部見ると聞いていますので、そういう声が大きくなれば、そういう声は市長まで届いている。ただし、答えるのは図書館になります。

○鈴木委員 市長への手紙というのもありますね。前にそれで、市長に読んでもらいたい訳ではないけれども、割とすぐに返事が来て、ちょっとしたことで解決されるのですね。

○多田委員 市のホームページに市長宛てというところもある。

○鈴木委員 だから、図書館ではない市のホームページのそういう声に書いてもいいかもしれないなと思いました。

○山口委員長 ありがとうございます。草の根の運動ということでいいと思いますけれども、なさっても結構です。

○久保委員 鈴木さんがさっきから広報を取り上げてくださっているのですが、町田の図書館の問題で先駆けというか、町田の鶴川の図書館をつくった浪江度さんが自分の著書で「広報革命」というのを1冊厚い本で出されているのです。広報というものも、ちゃんとチェックしないと、市民のものにしないと、情報発信として大切なものなのでというこ

とで、広報を見てわからなかったら、この広報ではわからないと市民が発言していかないと、広報はどんどん私たちからわからないものになってしまうということを書いた浪江度さんの「広報革命」という本があるのですけれども、大切なことかなと思うのですね。そういう本が図書館にあります。

○山口委員長 ありがとうございます。浪江度さんの本は図書館で持っていますので、ぜひお読みいただきたいと思います。

時間も迫ってまいりましたので、あともう1点、これも第16期への引き継ぎということになると思うのですが、プリントに印刷してあります図書館評価です。次の図書館評価の外部評価は、8月の次の第16期の方へ依頼が行く訳ですが、今回で評価内容、形式も変わります。変わりますが、一方では第15期で少なくとも2回は外部評価に参加されていますので、外部評価についてご意見または次の期へ課題として伝えておきたいことを確認させていただければと思います。これは時間の関係がありますので、ご意見がある方のみ手短にお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

私からですが、今度は8月に依頼を受けますので、第16期は大分スケジュールが後ろになってしまうのだろうと思うのですけれども、もう1つは、協議会側で大分書き込むスペースも増えたということです。これは第15期で尾留川館長のもとで1度トレースしている訳で概要はおわかりだと思っております。今度から評価がA、B、Cの3段階評価はつかない。ただ、その分いろいろ書き込むことはできるし、出された数値や生の情報を見なければいけないのです。

あとは実際に特に第15期の最初の段階で初めて参加されて、協議会委員になられていきなり外部評価に入った委員の方も何人かいらっしゃると思うのですけれども、そのときの感想というか、もっとこうなっていてくれればよかったのになみたいなお意見などもいただければと思いますが、いかがですか。

○多田委員 委員になってすぐ外部評価のA、B、Cで示さなければならないとなると、通知表のようなイメージとして捉えて、図書館がやってきたことに対してA、B、Cのランクづけをするような気分で、やはりそれをつけなければいけないという正直つらい気持ちの方が先に立ちました。なので、今回は違うということなのですけれども、通知表式な感じが本当にどうかということは、確かに内外に図書館評価を示すということは大事だと思いは参加してやったのですけれども、それには抵抗を感じました。

○山口委員長 ありがとうございます。ご意見はほかにどうですか。

○鈴木委員 外部評価をすることが一番の図書館協議会の仕事だからしょうがないのですが、新しいメンバーになってすぐにあるというのは結構きついですね。もう少し協議会でいろいろなことが少しわかってから評価作業に入るのだとちょっとあれですけども、今度の新しいメンバー何人かは、1回目の集まりがあってそこからすぐですね。それは結構きついですけれども、そういうサイクルは変えられないものですか。

○山口委員長 結論から言うと変えられないでしょうね。というのは、やはり年度単位に動いているということで、協議会の期が8月から始まる。そこら辺でしょうね。本当は年度の切りかえと一緒に一番いいでしょうけれども、そういう流れでは来ていないので、ですから、来年すぐどう変わるかという問題ではないと思います。ただ、いきなり始まるというのはちょっときついかと思います。

ただ、一方では、あれを経験すると、図書館の業務全体が俯瞰できるということもあることはあるので、短期集中で図書館の勉強をさせられるというか、初めて委員になる方はそういう判断なのかと思います。ですから、少しでも負担感を減らすためには、負担にならない程度に図書館はこういうものですよという情報を伝えてあげることが必要なのかと思ったりもしているのですが、やはり皆さんそれぞれ立場がおありでしょうし、お忙しいでしょうから、なかなかきついのかもしれませんね。

○多田委員 概要を知ることにはすごく有効だったと思います。

○山口委員長 本当は先に全館を見学して、現場を知った上で見るとまた目も違うのだろうと思うのですが、スケジュール的には残念ながら今回はそうはいきません。うまく第16期につなげていければと思います。これにつきましては、また第16期の方で議論を続けてもらうように引き継ぎ事項にしておきます。

では、よろしいでしょうか。もう残り5分ほどになりましたが、今日で第15期全20回の協議会が終了になります。退任される委員の方もいらっしゃいますし、継続される委員の方もいらっしゃいますが、この協議会で2期通して、今まで実は多くご意見をいただいた訳ですけども、最後に改めまして何かご意見、ご感想をいただければと思います。時間の関係もありますので、手短にお願いできればと思います。

それでは、市村委員から。

○市村委員 2年間お世話になりました。ありがとうございます。

私は、この委員のお話があったとき、勤務先の和光大学が町田市の図書館には大変お世話になっていて、協力貸出ということでお互いの窓口で本の貸し借りができていて、大学

図書館と公共図書館との連携ではかなり進んだサービスですが、そういうところでお世話になったりとか、学生も図書館のインターンで受け入れていただいたりとか、あるいは手嶋さんを初め歴代の館長の方々に司書課程の授業を担当していただいたり、大変お世話になっておりますから、何らかの形で貢献できればということで引き受けさせていただいたのですが、何分私が当初思っていたよりは、大学図書館の世界と公共図書館の世界は大分勝手が違って、余り積極的に発言したり提言をしたりとか、その辺の貢献ができなかったというのは非常に申し訳なく思っています。

前にメールでもお知らせしましたが、この4月から部署が変わりまして、今、大学本部で仕事をしておりまして、部署が変わると今まで図書館にいた立場と本部から見る立場とまた大分違うものですから、いろいろ四苦八苦して考えさせられることがたくさんあるのです。

ということで申し訳ないですが、今期で退任ということになりました。次期は、先ほど名簿に載っていましたが、同じ図書館からの瀧という者が今度委員として引き続き出させていただくことになりまして、後任の方が私と違って子どもの読書とか、あるいは公共図書館の活動にもかなり関心があるはずですので、私よりは力になれるのではないかと考えておりますので、引き続きよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

○山口委員長 それでは、久保委員。

○久保委員 今日、黄色のチラシを配っていただいたのですけれども、子どもと本と自然を結ぶということでずっと私がかかわっている野津田・雑木林の会という会がありまして、この夏休み企画も今年は12回目ですけれども、そういうスタンスでこういう協議会に出てきているということをお大切に、何か皆さんのお役に立てたらなと思っています。

さっき子どもの関係のことで、図書館の中で窓口で今度とりあえずその名称のものがなくなるというのは、長年こういう子どもと本と自然を結ぶという企画で図書館にかかわってきた立場としては、本当に児童の担当の方がだんだんと市民ボランティアと一緒にやるという感じでやってくれているのが実感として感じているので、本当に残念だと思っています。とりあえず第3期はもう決まったということでしょうがないのですけれども、今までどおりというか、それ以上に図書館の方とは密接にやっていきたいと思っていますので、そのフィードバックの方向でやっていきたいと思っております。またよろしく願いします。

○山口委員長 ありがとうございます。では、砂川委員、お願いします。

○砂川委員 私は、まず図書館が大好きだったので、初め評価という言葉がすごく嫌だったのです。そこから始まったので、初め何か違う世界に入ってしまったのかなと思ってしまったのですけれども、いろいろ図書館の見学をさせていただいたり、図書館の職員の方々ともいろいろ交流ができたり、今時点では図書館は本当にもっともっと身近に感じられるようになりました。

2年間お世話になって、目的というか、何のために図書館があって、図書館を利用する私たちがどういうふうにご利用させてもらうかということを考えなければいけないなと今思っているのですが、私がここにいる意味がわからないかもしれないのですけれども、またあと2年間、それを考えながらもうちょっと進んでいきたいなと思います。よろしくお願いします。

○山口委員長 ありがとうございます。では、中林委員。

○中林委員 私は、やはり2年間図書館協議会委員をやらせていただいて本当によかったと思っています。その中で一番あれなのは、図書館協議会委員が話をしたことを図書館の方に伝えて、図書館からまたお返しが協議会委員に来るというピンポンみたいなやりとりがとてもよくできていたというのは、やはりこれはすばらしいなと思ったのです。

もう1つは、久保さんを初め皆さんが本当に長い間、町田の図書館活動をすすめる会というのでやってこられた。そういったことも今までは知りませんでしたから、大変感銘を受けました。

もう1つは、バックヤードツアーのときに各館を回った訳ですけれども、そのときにやはり打たれたのは、図書館の方が実に真摯に一生懸命仕事に向かっていらっしゃるということでした。それは今までは知りませんでしたから、図書館協議会委員をやって本当によかったと思って感謝しています。

あとは、この図書館協議会委員の最初に図書館の評価が出たのは、あれは本当にびっくりでしたけれども、でも、あれをやりながら思ったのは、何と図書館の人たちは大変なだろうと思ったのです。あれだけのことをやる、それでまずびっくりしました。そういったことも含めて、まだあるのですけれども、いきなり最初に図書館の自由宣言という資料がぼんと送られてきて、それでびっくりしたのです。図書館が民主主義の社会の支えとなっている、もちろん一番基本的に大事なことで、それが今まで頭になかった、それで大変勉強になりました。

そういう意味では2年間、自分は大して役に立たなかったのですけれども、皆さんに本当にお世話になったと思って、図書館の方も含めてありがとうございます。

ちょっと質問ですけれども、今度新規に私のグループでは変わるのですけれども、そのときに「町田の教育」とか幾つかいただいた資料は、第三次のこういうものとか、図書館の自由宣言などはそういう人たちに送られるのでしょうか。

○近藤館長 基本的な資料は上げします。

○中林委員 次期のメンバーは決まっていますのですけれども、その人に今期のあれはきちんと継続して伝えたいと思います。今までいただいた資料は、そのまましっかりと伝えさせてもらいます。皆さん、本当にありがとうございます。

○山口委員長 ありがとうございます。鈴木委員。

○鈴木委員 私は去年の5月だか6月からだったので、2期とここには書いてありますけれども、本当に半分ぐらいしか経験していなくて、まだ新米です。私も、文庫をやっている、だから、図書館も文庫の本や何かをお世話していただいたりする部分でしか図書館のことが見えていなかったの、この協議会に出たり、町田の図書館活動をすすめる会に出させていただいたりして、もう少し広い範囲で図書館とか、全国と言ったらおかしいですけれども、いろいろなところの情報もいただいたりして、町田の図書館のいろいろなこととか、そういうことが全体を見れば町田もわかるみたいのところもあって、少しずつ勉強させていただいていきたいと思っています。よろしくお願いします。

○山口委員長 お願いします。では、多田委員、お願いします。

○多田委員 正直、協議会に入って最初にぶつかったのは評価のことで、評価については山口委員長からもいろいろご指導いただきながら進めてきたのですけれども、その中でも評価自体が職員の方にも重荷であるし、協議会の委員にとっても重荷であるし、それは大事なことなのですけれども、こういう重荷なことが協議会の中心の議題であるということに個人的にはちょっと疑問を感じてしまって、協議会の問題は評価も大事なのだけれども、例えば今回の要望書とか、以前に出された学校図書館への提言とか、あとはほかの委員でない方からもいただいた囑託職員の問題とかはぜひ取り上げてほしいといったこともあり、2年間というのは町田市協議会としては年10回の公開があり、非公開を入れると12回ぐらいはあるのですけれども、個人的にはなかなか集まりは大変なのですけれども、2時間ぐらいという時間を考えると、非公開の部分としてももう少しあっていいのではないかな。

もう少しあるということは、少しは話が進むのではないかとということと、個人的には2年が1期なのですけれども、協議会としてはもっと長いスパンを持って見ていかなければならない問題だと思って、自分も今回でおろさせてはいただくのですけれども、もし協議会委員として全体を俯瞰して議題を突き詰めていくのであれば、長いスパンが必要なのではないかなと強く感じました。

この場をおかりしまして、職員の皆様や委員の皆様、委員長にはいろいろお世話になったこと、教えていただいたこと、ありがとうございました。

○山口委員長 ありがとうございます。では、清水さん。

○清水委員 私も2年間、本当に余りよくわからない中、とても勉強になったというのが一番感じているところです。協議会を2年間やっている間の最後の4カ月をたまたま中学校に戻って仕事をさせていただいたのですけれども、前に仕事をしていたときと協議会を2年やって最後に行ったときと、子どもに対して、図書館に対するイメージが自分で変わっているなと気がつきました。子どもたちには、学校図書館も含めて図書館は困ったときに行くところなのだよと胸を張って言えるようになりました。何のことで困ったら、とにかく図書館においでと聞いてあげることもできるし、何か提供してあげることもできるし、困ったら図書館に来てねというスタンスで学校図書館に入ることができたのは、この2年間勉強させていただけたおかげだなと感じました。

副委員長としては本当に何もできなくて申し訳ありませんでした。玉目さんの後を引き継いだのですけれども、全く役に立たなくて、ただただ委員長の健康をお祈りするに終わってしまいましたけれども、副委員長の方はもう結構ですけれども、委員としては来期もまた勉強させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○山口委員長 ありがとうございます。

最後に私から。もう早いもので私も、先ほどいただいた資料だと3期やっているのですね。久保委員はずっと上ですか、考えてみると最初の1期目は本当に右も左もわからず、私の専攻は歴史学と図書館学が専門ですが、やはり協議会の委員というのは全く違う世界ですね。ですから、学識経験者などというのは全く意味がないのだなというのがわかります。最初の1年間は本当に右も左もわからずでした。

ただ、一方では図書館評価の最初から参加してまして、先ほどの抵抗感があるという委員の方々のご意見はごもっともだと思うのですね。ただ、一方で公立図書館の運営を評価を通してじっくり見ることが出来る訳なので、表面的なサービスに対する要求

だけではなくて、その運営とか、さらには今予算まで取り組んでいるということは、市全体、行政全体の動きをにらみながら図書館を考えるということになるのだろうと思うのです。それは2期3期と続けてきた結果、今やっとなんかそういうところに立てたかなと。最後の1期の2年間、協議会の委員長ということで、正直今までの委員長はみんな偉かったな、自分はこんなうまくはできないなと思いながら終わる訳ですが、とにかく図書館協議会というのは、公共図書館にとって一緒に走るパートナーという位置づけで、塩尻の前館長の内野安彦さんがおっしゃっていたのですけれども、本当にそうだなと思います。

ただ、それは協議会だけでは、やはり委員は変わりますので、協議会を支えていく、さらには市民や利用者があるはずで、そういう人たちからのいろいろな情報が協議会を活性化し、また図書館側と協力をしつつも、馴れ合いではなくて、適度の緊張感を持った立ち位置をお互いに持てているところもよかったのかなと思います。

町田市の図書館協議会は、浪江虔さんが初代の委員長ですから、それから実は15期で30年続いています。年10回というのも全国的には少数派でございます。ただ、図書館大会などでほかの地域の協議会の委員の方たちといろいろな情報交換をしますと、やはり年三、四回では大体報告に対する承認だけになってしまうので、実質的な議論はできないということをおっしゃっていましたし、やはり問題をみんなで共有するためには時間が必要なのだ、機会が必要なのだというのはさっき多田委員がおっしゃったとおりだと思います。ぜひそんな町田の特徴を生かしながら、協議会がさらに進展していくといいなと思います。それも全ては図書館が良くなること、そのためですので、ぜひそのために協力していただきたいと思います。

私は来期も継続して委員をやりますが、ぜひご退任される委員の方は、今後とも協議会のサポーターとして、図書館の応援者としていろいろとかかわり続けていただければと、こちらからもお声がけしますので、何かあったときにはぜひお知恵を拝借できればと思います。

時間をちょっと超過しましたがけれども、本日の委員会は以上でございます。よろしいでしょうか。

それでは、本日の協議会はこれで終了いたします。ご苦労さまでした。